

# 令和元年「トワイライト・オン(早めのライト点灯)キャンペーン」実施要領

## 1 目的

過去5年間（H26からH30）の統計では、1年のうち年末3か月（10月から12月をいう、以下同じ。）の交通事故死者数は133人と多発しています。特に歩行中・自転車乗用中の死者は74人で、同期における死者の55.6%を占めるとともに、歩行中・自転車乗用中の年間死者数194人の38.1%と最も多く、7月から9月の3か月間と比べると2.1倍に増加しています。

また、時間帯別では、薄暮時間帯から夜間にかけての午後4時から午後8時までの時間帯の死者は39人で29.3%を占めるとともに、特に、歩行者・自転車乗用中の死者は29人で74.4%と高率を占めています。

その原因の一つに、帰宅や買い物などで『車両と人』の動きが重なり合う交通環境にある中、日没を迎えて視認性が急激に低下し、車両も人もお互いに発見が遅れることがあげられます。

このように秋口から年末にかけて、日没時間の早まりとともに、『魔の時間帯（午後4時から午後8時）』に重大事故につながるおそれのある交通事故が多発する傾向にあることを踏まえ、日没30分前を目安にした『早めのライト点灯』を最重点に、関係機関・団体等と連携を図りながら、各種啓発・広報活動を実施することとします。

## 2 実施期間等

令和元年9月21日（土）～12月31日（火）

※ 11月15日（金）…夕暮れ時の県内一斉街頭啓発活動日（詳細は別途通知）

## 3 運動の重点

日没30分前を目安にした『早めのライト点灯』

### トワイライト・オン（早めのライト点灯）タイムの目安

- ・ 9月中 ～ 午後5時00分ころ
- ・ 10月中 ～ 午後4時30分ころ
- ・ 11・12月中 ～ 午後4時00分ころ

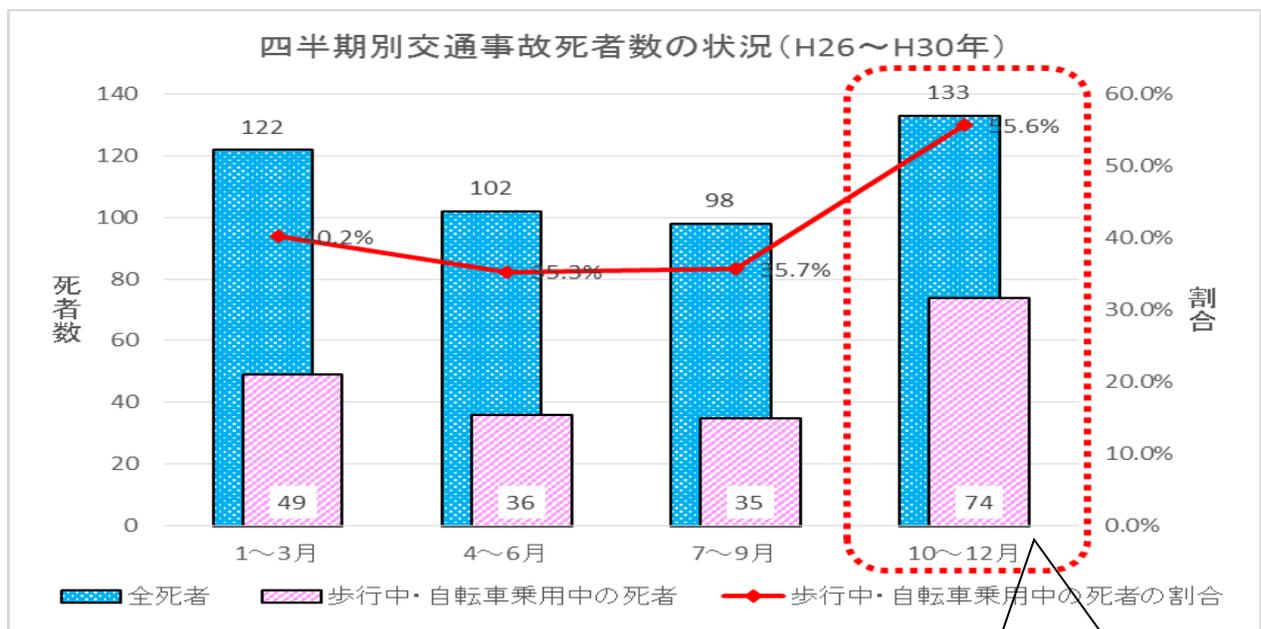
## 4 推進項目及び推進事項

推進項目	推進事項
歩行者・自転車利用者に対する安全意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 夕暮れ時と夜間は、走行車両の速度や距離間隔を見誤りやすく、歩行者・自転車利用者は運転者から見落とされやすいなどの危険性を認識・理解させ、慎重な行動の実践を促す交通安全教育を推進する。</li><li>○ 歩行者に対する明るく目立つ色の服装と反射材用品の着用や、自転車利用者に対する早めのライト点灯及び自転車側面等への反射材用品の装着を徹底する「交通安全ピカピカ運動」の強化を図る。</li><li>○ 高齢者に対する世帯訪問や交通安全教育を通じ、夜間は不必要な外出を自粛するよう働きかけるとともに、外出の際は反射材用品装着等を徹底させる。</li></ul>
運転者に対する安全意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 日没約30分前の早目のライト点灯と、こまめなハイビーム・ロービームの切替え（基本はハイビーム）を徹底し、夕暮れ時から夜間にかけて多発する交通事故を防止するための「早めのライト点灯とハイビームの適切な使用運動」を県民総参加で実施する。</li><li>○ 早めのライト点灯を呼び掛ける「トワイライト・オン（早めのライト点灯）キャンペーン」、及び県警主催による「夜間の交通事故防止 笑顔でハ、ハ、ハ運動（早め</li></ul>

	<p>のライト・オン!、ハイビームが基本!、反射材の装着!)」を推進する。</p> <p>○ 夜間における視界の狭さく等、視認性の低下の危険性を認識・理解させる交通安全教育を推進する。</p> <p>また、早朝や夕暮れ時等通勤時間帯における交通事故多発の実態を周知し、「~かもしれない」との危険予測に基づいた前方注視や速度低減等、基本的な安全運転の指導を推進する。</p> <p>○ 横断歩道では、横断歩道を横断中、または横断しようとしている歩行者がいるときは、必ず横断歩道等の手前で一時停止して、歩行者を安全に渡らせるなど、歩行者最優先の徹底を図るとともに、横断歩道手前に設置されている「横断歩道あり」の道路標示(通称「ダイヤモンド」)の周知徹底を図る。</p>
街頭活動の強化	<p>○ 夕暮れ時を中心に、街頭での歩行者・自転車利用者に対する交通安全指導や保護・誘導活動を実施する。なお、11月の県民交通安全の日(11月15日[金])を「夕暮れ時の県内一斉街頭啓発活動日」と定めて街頭活動を強化する。</p>
広報啓発活動の推進	<p>○ 広報紙、機関紙、テレビ、ラジオ、広報車等各種広報媒体を活用し、夕暮れ時と夜間の交通事故防止を呼びかける。</p>

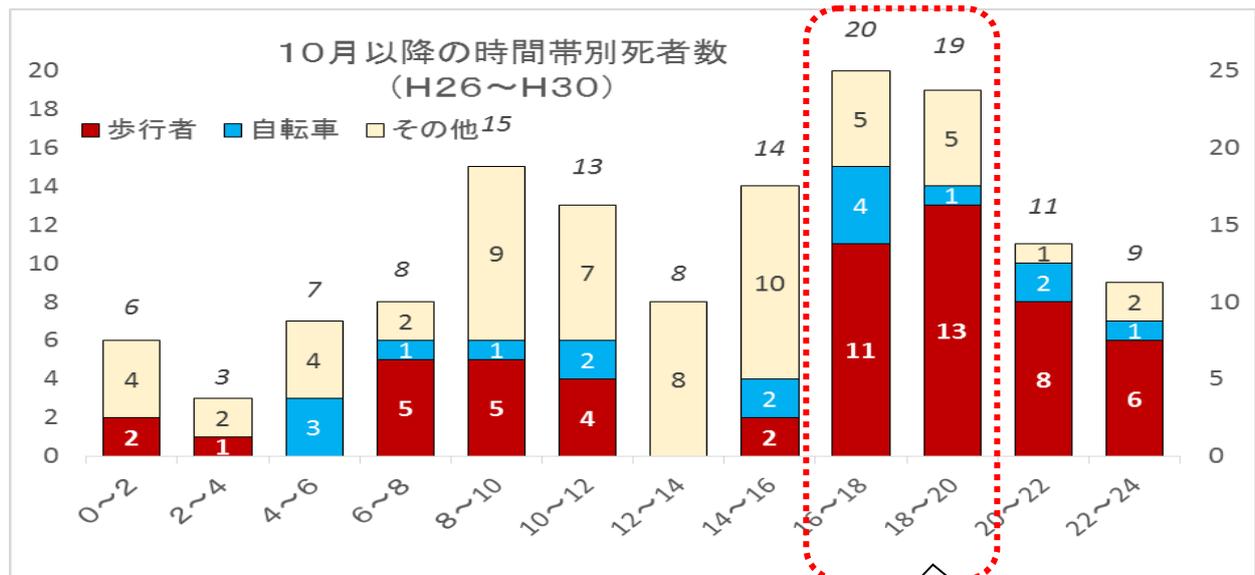
## 5 資料…交通分析

### (1) 四半期別交通事故死者数の状況



**秋口から死亡事故が増加!**  
(特に歩行中・自転車乗用中の被害が増加!)

## (2) 年末3か月の時間帯別死者数の状況



### 『魔の時間帯』が最も危険！

10~12月は午後4時から午後8時に、  
特に歩行者・自転車乗用の事故が集中→7割強

## 6 その他配慮事項

### (1) 積極的な高齢者対策の推進

近年の交通事故死者数は100人弱と、315人の昭和45年の約3割と減少傾向にあるものの、高齢者の占める割合は、6割を超え、本年6月末現在においても、高齢者の死者は26人で、前年より2人増加し、全死者40人の65.0%と依然として高い率を占めています。

特に、歩行者の死者が10人で、このうち道路横断中が7人（うち横断歩道横断中2人）と、目立っています。

また、原付以上の運転者が第一原因となった事故が36件で、このうち高齢運転者が12件と全運転者事故の33.3%を占め、特に昼間での事故が9件と目立っています。

以上の点を踏まえ、高齢者に対して

- ・ 加齢等に伴う身体機能の変化が運転に及ぼす影響の認識
- ・ 全ての座席のシートベルトの着用の徹底
- ・ 運転免許証の自主返納の検討
- ・ 安全運サポート車（サポカーS）への乗り換えの検討
- ・ 自転車乗用時における交通ルールの遵守
- ・ 夜間外出時における反射材用品等の着用
- ・ 安全な場所での道路横断と左右の安全確認の徹底

について指導・啓発活動を積極的に推進することとします。

### (2) 道路横断中の交通事故を防ぐための「3つの心得」

#### その1…横断歩道のある安全な場所で横断

近くに横断歩道のあるときは、遠回りでも横断歩道を利用する。

#### その2…左右の安全を確かめてから横断

横断中も気を緩めることなく、左右の安全を確かめる。

#### その3…夜間・夕暮れ時は、反射材用品を利用

ドライバーが早く気づいてくれ、あなたの身を守ります。

(3) 資料…高齢者の事故状況

